

洪車集

思樂庵
古田忠良

中村俊定文庫
文庫 18
914





日月の運動、汽車が疾く走る如く
 多岐氏思葉子のをり此頃のやうに
 やるひ———お七とお八の早急を踏く
 ちか——起祥北近福と夫余福菴のま
 流歌のまのをえ——精神をなす
 ちの母ととあ、やのなる、踏まのを切結
 ちか———考のい———や———
 ちか———此俳書おおのま——津戸
 ちか———此海内書———文を踏く



名所 此燈の師とあり 鬼舟と名乗
西鶴、石亭紙とあり 草紙とあり 向のたふ
もよみしに 次車集とあり 送る
ゆきも 博の 由の 如 因縁
こゝろ

照生六

花露

女



九月廿四日

心

思

と

十二日

桐

石

結

思ふ居士七回

うらたけしむらさき

木我

あまのこころ

精加

あまのこころ

永院

あまのこころ

長仙

あまのこころ

日彦

あまのこころ

月朶

あまのこころ

三千寺

あまのこころ

初月

思ふ居士

七回

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ

日ちもすし余もも秋のさす中一那
 朝顔の毎日や来るはほくさう那
 朝顔やばやうくえうるねよか
 朝顔やさう一掃も桂とさう
 水音やいゝも秋の来るさう
 樹一もやうくさうくさう那
 日と降すし雨のせせし女のさう那
 室のけいもさうあり秋は輝
 さかすもやさう一掃月さう

袋 塚
 三ま 旗
 赤 崎
 土 砂
 松 宇
 映 香
 目 谷
 尻 松
 梅 年

思 葉 成 人 共 心 寄 人
 うまのたさく葉のさう
 さう 風 流 大 江 丸
 けいもさう解さう
 かゆさうとくさう

高 葉 一 掃 月 影 新 月
 一 掃 月

白火	文海	連水	菁茶	玉齋	尺二	桃壺	深茶	桃盃
思ひ集むる時をいかにいふを	相顔のくせもいふよりいふの敷	中なる心もいふにやいふを	茶の味もいふにやいふを	月もいふにやいふにやいふを	日もいふにやいふにやいふを	花もいふにやいふにやいふを	鳥もいふにやいふにやいふを	草もいふにやいふにやいふを

俳友思樂為
 ちるれ
 つるせの
 ちるれ
 文海
 遠
 柳
 林

らつちうしんりふりふりて秋梅葉

冬より朝

壹五

山花をえりてあけつて下結の語

物莖家

花のどけ歌とて入むる日は白ふ

香芸

格う花も移りてある志はすけり

辨音
下陽
村

先言ちまひつて振るやけり人半

号室

まうわうふみとてはひ思ひつる月

二葉

いつ挿る古葉もあへてえりま立

小依

揚りし花の時をへりて

尋香

多湖氏の

体廣忌

飛脚屋の

舞のあつて

盆のあつて

水稽

佛の心をくらひて大師藤原 善光

善光の心多く枯野は人通る 静好

多くも方行ふ心の餅つ 又権

行ふ心の餅つ枯野尾元那 交和

加へ心の餅つ枯野尾元那 善光 善光

枯野尾元那 青豆

尾元那 万全

万全 勝石

勝石 百石

思樂居すらはさる不切切案一
之一不幸少く一語も遂す
て中起祥ふ少りぬ心の圓阿の
竹滴鹿老人より 転出不到の
十餘也

秋空一逢允如

少心心の美心心の

井口芭蕉本住 雪守公直

無松花のまはわく〜白文〜くま

牡丹

春の部

物花やま〜梅のうも松花ひま

霞香女

あけ〜松〜も霞してま〜う宿

晴雲

花は角松より〜も白文〜くま

朱瓶

あ〜下〜白文〜くま

雲霞

入〜ま〜白文〜くま

為海

あ〜白文〜くま

應一

あ〜白文〜くま

歌雲

思ふよ〜十回忌追悼

大加那〜心路々

い〜の月か多し

黒之善奈水

香とまゝにまうとまの山のか	香は
吹く止見や一陰と一梅並る	源也
けいあももあつたけの野路の那	日宮
西のりつづるあやうやまを柳	休舎
まのりは教とそらうの流むらり	友昇
里のり山出坂もまきく桂の那	桂山
市とりのあもも禁る静の那	静交
元宝のりまはまのりる穂麦の那	百了
香とまゝにまうとまの山のか	茂精

思ふあゆもまや七宝の
 六のあつたけの野路の那

りのうきとねも

屋とら屋のからまらふ

おまの延昌

只花と云々	只花と云々	只花と云々	只花と云々	只花と云々	只花と云々	只花と云々	只花と云々	只花と云々	只花と云々	只花と云々	只花と云々
雷石	維弘	詩井	松根	極石	一男	己矢	金羅	素石	松根	極石	一男

差表

穀能多也

ひろくたろく

ひろくたろく

三石

雪松	斗 <small>の</small> 雨 <small>の</small> 那	那	那	那	那	那	那
樞 <small>下</small>	那	那	那	那	那	那	那
美 <small>下</small>	那	那	那	那	那	那	那
那	那	那	那	那	那	那	那
那	那	那	那	那	那	那	那
那	那	那	那	那	那	那	那
那	那	那	那	那	那	那	那
那	那	那	那	那	那	那	那
那	那	那	那	那	那	那	那
那	那	那	那	那	那	那	那

冬之部

物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人
物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人
物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人
物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人
物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人
物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人
物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人
物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人
物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人
物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人	物 <small>子</small> 人

思樂志人の

思樂志人の

思樂志人の

思樂志人の

思樂志人の

涼坪	思水	一理	雨折	舞具	如音	竹馬坊	源々	曲川
一のちんまふちんもまけき	美るや新あ	しんあふんか	あまの	解ら	あふん	あふん	あふん	あふん

思ふ居出起祥
 法是尔指事

たのしみ
 あまの
 けさ
 富水

夏乃部

梅 ^ノ 海 ^ノ 角 ^ノ つら ^ノ い ^ノ 横 ^ノ む ^ノ 極 ^ノ 麦 ^ノ う ^ノ 那	素山
夏 ^ノ の ^ノ い ^ノ い ^ノ 深 ^ノ は ^ノ 竹 ^ノ 入 ^ノ り ^ノ り ^ノ り	松圃
世 ^ノ 来 ^ノ し ^ノ て ^ノ 十 ^ノ 景 ^ノ 集 ^ノ の ^ノ 行 ^ノ 無 ^ノ 松 ^ノ の ^ノ 輝	山畝
又 ^ノ ら ^ノ し ^ノ て ^ノ 清 ^ノ 水 ^ノ も ^ノ 果 ^ノ て ^ノ 極 ^ノ は ^ノ 先	省家
人 ^ノ の ^ノ い ^ノ り ^ノ 本 ^ノ 下 ^ノ 子 ^ノ ま ^ノ ち ^ノ う ^ノ い ^ノ ま ^ノ い ^ノ い ^ノ 雨 ^ノ の ^ノ い ^ノ	琴唐
涼 ^ノ し ^ノ さ ^ノ る ^ノ 美 ^ノ 松 ^ノ 子 ^ノ 入 ^ノ る ^ノ は ^ノ い ^ノ 川	清古
又 ^ノ ま ^ノ い ^ノ ま ^ノ ち ^ノ う ^ノ い ^ノ り ^ノ ま ^ノ ち ^ノ う ^ノ い ^ノ ま ^ノ ち ^ノ う ^ノ い ^ノ	朝途
又 ^ノ ま ^ノ い ^ノ ま ^ノ ち ^ノ う ^ノ い ^ノ り ^ノ ま ^ノ ち ^ノ う ^ノ い ^ノ ま ^ノ ち ^ノ う ^ノ い ^ノ	規交

あまのいりま

あまのいりま

あまのいりま

若松岬子とや交あけし唐の那

る可

松の下の麦苧もかき一立吐し

江負

月もさそ見も吹しし約 葱

具村

明あまき花もあもつてふし葉葉愛

子四

葉振るしつらつらつらつらつら

十郎

花ざりしつらつらつらつらつら

乙親

唐先のつらつらつらつらつら

西欠

花さつらつらつらつらつらつら

日下

白のつらつらつらつらつらつら

水

秋のつらつらつらつらつらつら

冬志

野のつらつらつらつらつらつら

足隣

花のつらつらつらつらつらつら

鶴存

花のつらつらつらつらつらつら

池山

花のつらつらつらつらつらつら

萱堂

花のつらつらつらつらつらつら

如静

花のつらつらつらつらつらつら

半桂

花のつらつらつらつらつらつら

葉古

花のつらつらつらつらつらつら

金風

石のまはりの草花をみるに

源藤

あけはらけの空をながめ

大年

あけはらけの空をながめ

七儀

あけはらけの空をながめ

杖山

あけはらけの空をながめ

宇山

あけはらけの空をながめ

舞妓

あけはらけの空をながめ

蓬宇

あけはらけの空をながめ

關水

四季の生花をみる

秋の

あけはらけの空をながめ

源藤

此佛伽藍のいよまふる

茶を好む作

思ひ出く

露の香も思ふ茶

茶も初本

麦阿子休

古きよる出て柳一き柳が 茶阿

笑わくたの中よりるの寂 正義

さしあつたを思ふや月の秋 松郎

うろくして思ふらひま田の露 一泡

あつたや志を思ふまのま 旭高

冷たいあつたうろく 苦のま 枝玉女

汗をくちかてむくくの子の白ま 謝法

まゝのうらやまを思ふと中絶せし
又鳥

世にたゞのうらやまを思ふと中絶せし
恭乃

又のうらやまを思ふと中絶せし
採光女

折れしうらやまを思ふと中絶せし
藍庭

短きうらやまを思ふと中絶せし
巴大

思ふと中絶せし
赤玉

思ふと中絶せし
素玉

思ふと中絶せし
乃馨

思ふと中絶せし
玉音

まゝのうらやまを思ふと中絶せし

ゆらゆらと自然のまゝ

思ふと中絶せし

友なりしうらやまを思ふと中絶せし

思ふと中絶せし

まゝのうらやまを思ふと中絶せし

思ふと中絶せし

是也

思樂居士ノ卧音ヲ

悼ム

香をもと久く猶

空気があり

露の菊

七十七

千々皆留りて流り終る

死別女

池乃桂法寺 福乃 一乃

芳泉

破拾芳志法堂中 巻りて

朝

向小澤 一乃 寺 乃

泉

涼風乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

朝

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

泉

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

朝

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

泉

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

朝

玉障しのりるにり

泉

まじりたるは白粉と愛しる色

泉

春のいさかひをいりて

泉

海苔のしほの露上たてり

泉

今上は果はるむの思ふ一物

泉

新緑のけりし露のしほは能く

泉

ふりさかたのちをいりて

泉

雪のふりたるをいりて

泉

雲のしほをいりて

泉

水と空のけりし露のしほは

泉

のふりたるをいりて

泉

月と空のけりし露のしほは

泉

拾ひのふりたるをいりて

泉

冬もさかたのけりし露のしほは

泉

岸境たるをいりて

泉

舟廻り時をいりて

泉

光法師のけりし露のしほは

泉

野のけりし露のしほは

泉

庭へ 梅の 花の 散り ぬる 量
 十五 年 月 研 山 寺 庭 の 上
 庭へ 梅の 花の 散り ぬる 量
 庭へ 梅の 花の 散り ぬる 量
 庭へ 梅の 花の 散り ぬる 量
 庭へ 梅の 花の 散り ぬる 量
 庭へ 梅の 花の 散り ぬる 量
 庭へ 梅の 花の 散り ぬる 量
 庭へ 梅の 花の 散り ぬる 量

七と世の秋あり春あり
 春の 花の 散り ぬる 量
 春の 花の 散り ぬる 量

春の 花の 散り ぬる 量
 春の 花の 散り ぬる 量

梅窓

各々の文の題名

教子一の自向一休も紅蓮の那

栄甘

三の筆や一の筆を七の筆

正並

横系也一の筆を七の筆

政七

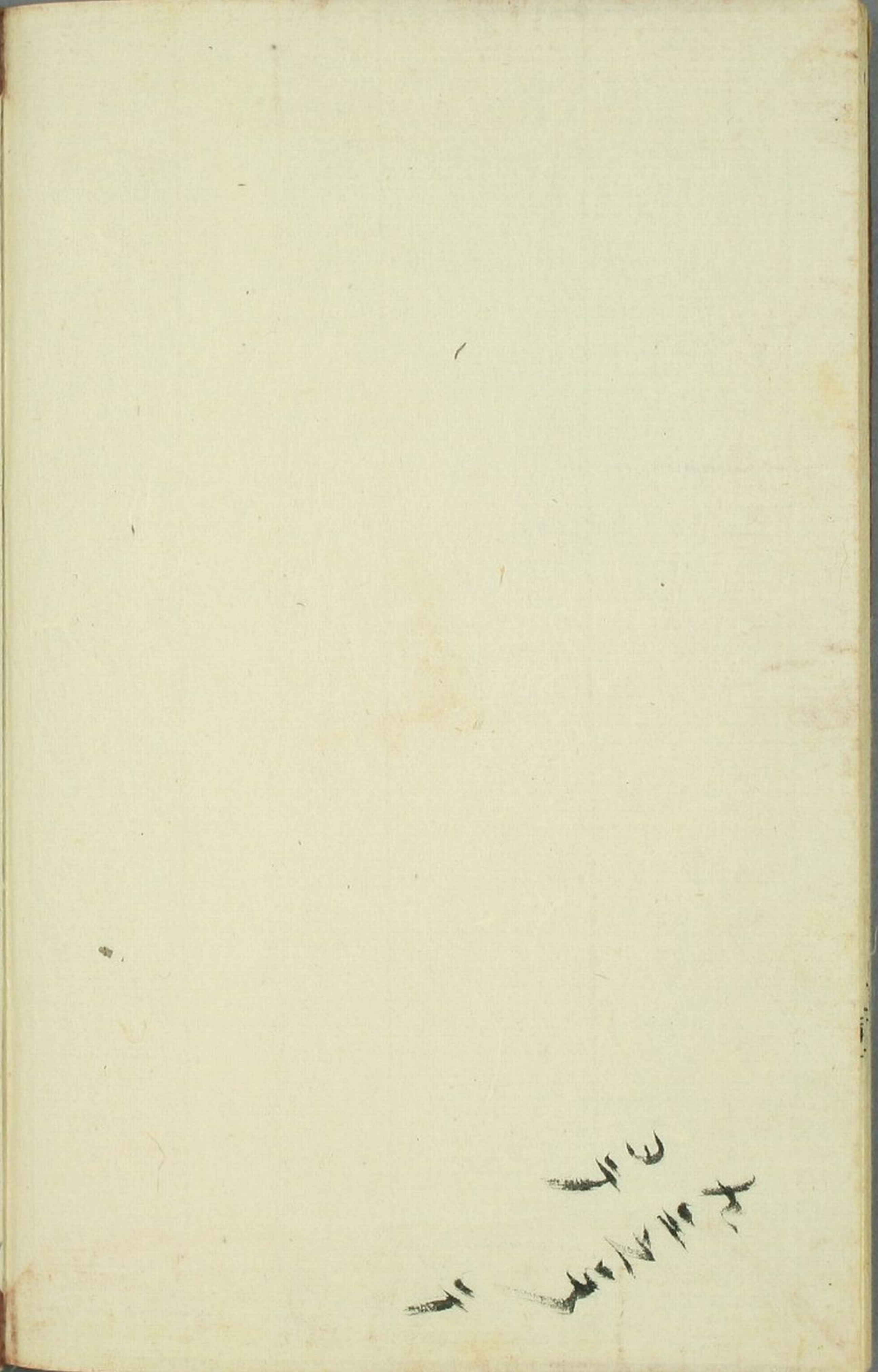
因縁の一の筆を七の筆
と云ふは一の筆を七の筆
と云ふは一の筆を七の筆

其の筆の一の筆を七の筆

景良

明治十一年一秋





Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or initials, located in the bottom right corner of the page.

